

第10回府中市生涯学習審議会会議録

1 日 時 平成30年8月22日(水)午後3時～5時

2 場 所 府中駅北第2庁舎5階 会議室

3 出席者(敬称略)

(1) 委員13名

大谷久知委員、奥野英城委員、木内直美委員、岸定雄委員、北島章雄委員、佐野洋委員、関口美礼委員、相馬一平委員、寺谷弘壬委員、長畑誠委員、中村洋子委員、西原珠四委員、三宅昭委員

岩久保早苗委員、忍足留理子委員は欠席

(2) 職員4名

古田文化生涯学習課長、平野文化生涯学習課長補佐、宮崎生涯学習係長、諫山事務職員

4 報告事項

(1) 配布資料の確認

- ・資料1 府中市生涯学習審議会(第9回)会議録(案)
- ・資料2 東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回役員会・第2回拡大役員会及び第1回理事会資料(抜粋)
- ・資料3 第3次府中市生涯学習推進計画(案)
- ・資料4 平成30年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロック研修会スケジュール及び内容について

(2) 前回議事録の確認

各委員に校正を依頼した前回議事録(案)について、市民に公開することが了承された。

(3) 「東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回役員会・第2回拡大役員会及び第1回理事会」について

(事務局) 資料2は「東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回役員会・第2回拡大役員会及び第1回理事会」の資料の抜粋である。

「第49回関東甲信越静社会教育研究大会長野大会」の日程は平成30年11月15日(木)から16日(金)で、旅費については事務局で2名分確保しているが、参加費、宿泊費等については実費となる。予算の都合上2名を上限としているが、参加希望者は8月31日(金)までに事務局まで連絡をいただきたい。

続いて13ページを参照いただきたい。以前配ったものに変更があったため報告

する。１２月１５日（土）交流大会の場所が「武蔵野スイングホール」から「武蔵野公会堂」に変更になった。次に１４ページから１５ページであるが、各ブロックの研修内容が一覧となっている。府中市で開催する第５ブロック研修会の来賓派遣役員が田中副会長（三鷹市会長）になった。他のブロック研修会の方にも周知・参加をしていただきたいため通知を出している。他のブロックの方が参加する場合もあるのでご承知おきいただきたい。

当日は会長に出席をしていただいているので報告をお願いしたい。

- （会長） 各ブロックに会長、副会長が交代で出席をする。今年は５つのブロックの日程が同じ日にならないようにうまく分散された。第５ブロック研修会に出席する田中副会長から、参加したい委員は他ブロックでも出席してもいいのではと提案があった。さらに一般市民の参加や、委員の中に教授が多いためゼミの学生の参加の提言もあったが、これについては東京都市町村社会教育委員連絡協議会の予算での事業のため、次の理事会で検討をし、結論を出すこととなった。

6 審議事項

- （１）第３次府中市生涯学習推進計画（案）について

- （事務局）（資料３ 第３次府中市生涯学習推進計画（案）に基づいて説明を行った。）

第３章、第４章は、前回の審議会での意見を受けて修正したものである。資料３は全５章を想定している計画の原案である。

第１章は、国の動向として生涯学習の考え方、生涯学習行政の位置づけと近年の動向を、文部科学省の動向に基づき説明している。内容は生涯学習の概念が、人々が生涯に行うあらゆる学習活動を含んだものであること、ただし生涯学習行政としては中核となる社会教育行政及び学校や家庭を含んだ全体の行政の「調和と統合」が中心になること、近年の動向としては「地域課題解決や地域づくりへの貢献」という目的、その目的の手段としての他行政領域や官民との連携、これを実現する人材として「学びのオーガナイザー」育成にあることを説明している。また学校教育との関係では、中央教育審議会の答申として学校教育と地域教育との連携を進めていく方針が出されている。

２ページの東京都の動向は、東京都の生涯学習審議会で、平成１７年度より学校区単位で学校・地域・家庭が協働し、子どもの育成・教育活動に取り組んでいく「地域教育プラットフォーム構想」を打ち出しており、平成３０年には国における地域学校協働活動の推進方針を受けた「『地域と学校の協働』を推進する方策について」の中間のまとめを打ち出している。

３ページは府中市の生涯学習行政の歩みを説明するとともに、第７期の生涯学習審議会では、国における地域学校協働の方針を踏まえた答申を行ったことを記述している。

4 ページではその大きな成果としての「学び返し」の理念の確立と、第2次府中市生涯学習推進計画の成果に触れている。ポイントは、国の動向として生涯学習の成果を社会に還元するという目的意識においても、また庁内外や民間との地域連携やそれを調整する人材の育成という点においても、府中市の「学び返し」が時代を先取りしたものであったことである。

4 ページの下の部分では第2次府中市生涯学習推進計画の課題に触れている。国の理念を先取りし、国のいう「学びのオーガナイザー」を「生涯学習ファシリテーター」として育成してきた一方で、地域の生涯学習事業全体を連携・協働するための施策が計画されてきたものの、ファシリテーター事業が育成の段階でとどまり、今後の活用に課題がある。また生涯学習全体での広報施策や、相談体制等の横断的な施策が十分でなかったことが指摘される。「学び返し」の理念を実現する手段、特に地域での連携や協働を促進する横断的な事業などをいかに実現していくかが今後の課題となる。

6 ページでは本計画の目的を3つ示している。1つは「学び返し」の理念を府中市総合計画に基づき、市民協働の側面から強化し、それを踏まえた生涯学習活動の活性化を図ること。2つ目は第2次府中市生涯学習推進計画の反省を踏まえ、生涯学習全体の統合・調和機能の強化を図り、庁内・地域内の連携を強化していくこと。3つ目は市民の多くが興味を持つ府中市ならではの領域での生涯学習活動や、「学び返し」の活動を強化し、市民の巻き込みと豊かな地域づくりを結びつけていくことである。また第3次府中市生涯学習推進計画の期間中に「ラグビーワールドカップ」「東京2020大会」が実施されることから、このような事業との連携も可能な限りはかかっていくこととする。

8 ページは計画の位置づけと期間である。位置づけでは第6次府中市総合計画の後期基本計画を上位計画とし、社会教育分野などの各個別計画との関連の中で計画を策定・実施していくことを示している。また期間は2019年度から2026年度までの8年間とする。

9 ページから10 ページは計画策定の体制として、府中市生涯学習審議会と市民アンケート調査、ヒアリング調査の実施概要を記載している。

11 ページは府中市の生涯学習の現状として、生涯学習系施設の設置状況をまとめたものを示している。府中市は近隣他市と比較し大規模な生涯学習センターが整備されており、専門の文化芸術施設として本格的な美術館や2,000席級のホールが整備されている。スポーツに関連する施設も多く、個別施設の規模も大きいという点で恵まれた状況にある。

12 ページから13 ページでは、代表して5つの施設の利用状況を示している。平成28年度の総利用者数は750万人以上に及び、これは市民一人当たりになると年間30回近くにもものぼる。またヒアリング調査でも「講座実施において定員割れはほとんどない」という回答を得ており、市の生涯学習施設は非常に活発に利用されている状況である。ここについてはグラフに平成29年度の実績値を追加し、平

成 24 年度を削除する。これに伴い平成 28 年度の文章も 29 年度に修正する予定である。

14 ページから 15 ページは、主に市民アンケートに基づき市民の生涯学習の実態を整理している。市民の生涯学習の実施率は 80.3% と非常に高い状況である。ただし有職者については「していない」という比率が 25.3% と全体平均より高く、課題が残る。生涯学習の方法では、「図書館、博物館、美術館の利用」が 40.9%、「生涯学習センター、文化センターなどにおける講座や教室」が 31.4% となっており、市の生涯学習施設や事業の利用がかなりの比率を占めている。利用施設では、生涯学習センターの学習・体育・図書館のいずれかの施設を使った比率は 35.1% でもっとも高く、次にルミエール府中の市民会館・図書館のいずれかの施設を使った比率 34.0% が続いている。市の生涯学習事業への参加意向も 80.8% と高くなっている。生涯学習活動の実施率が低い有職者も参加意向は 79.5% と高くなっている。

15 ページ(2)は「学び返し」についての結果をまとめてある。「学び返し」の認知度は、「知っていた」「聞いたことはあるが意味は知らなかった」が合わせて 13.2% と低く、実際に「学び返し」をしたという比率は 12.2% にとどまっている。一方「学び返し」をしたいという意向は 80.3% と高く大きな差がある。

「学び返し」をしたことがない最大の理由は「機会がない」が 52.1% となっており、機会をうまく提供できれば大きく実施率が向上していくことが期待される。

16 ページでは、「学び返し」を促進するための手段やテーマについて聞いている。

手段では「地域活動・ボランティアの情報提供の充実」の 51.2% がもっとも高く、僅差で「知識・技能や経験を活かす人と活動の場を結ぶ人の充実」の 51.0% が続き、3 番目には「人材登録制度の充実」25.7% となっている。この結果をみると、まずは地域活動・ボランティアの情報提供の充実が大切だとわかる。2 番目は本来、生涯学習ファシリテーターがなすべき役割、3 番目は生涯学習サポーター登録制度と重なる部分となっている。市の特徴を活かしたテーマとしては、歴史や伝統文化が 36.1% と非常に多くなっている。生涯学習サポーター制度への登録意向も 38.0% と高い比率となっている。

17 ページは生涯学習実施上の課題である。市の生涯学習施設を利用する上での課題、充実してほしいサービスからみた課題、生涯学習全体に対する意見からみた課題のいずれも、広報の充実や情報の提供がもっとも高くなっており、最大の課題であることがわかる。また、生涯学習をしていない理由でも、情報入手が難しいが 3 位に入っている。

18 ページからは第 3 章となる。ここでは前回の審議会の議論を受けて大きく変更した点を中心に説明する。19 ページの基本目標は「みんなが学び 地域に返すひとと地域がともに育つ 『学び返し』のまち 府中」に変更した。なお「生涯学習を個人の中にとどめるのではなく、府中の地域的な課題を解決し、あるいは府中の特色ある地域づくりを進めていくことと繋げていくことです。これにより市民協働

での豊かなまちづくりを目指します」という文章を追加し、「学び返し」という手段を目標にするのではなく、そういった手段を通して豊かな地域づくりを目標にすることを明確にした。

20ページの施策体系は、施策名称から「学び返し」を削除し、地域還元や地域づくりといった、豊かな地域を実現することが目標であることをわかりやすい表現に変更している。

21ページからは第4章となる。前回の審議会でも説明した通り、施策の部分に出てくる主な事業については、事業の数を変更していることと、計画期間中の取組内容の欄の追加、担当課名等の削除などの修正をしている。文言についてはまだ調整中のため変更になる。21ページから23ページの基本施策1については、文章やデータをわかりやすく再整理した。24ページの重点施策についても、表題と取組内容の文言をわかりやすく修正した。

28ページからは基本施策2となる。前回は「学び返し」の普及を目標とした記述になっていたが、基本目標の変更に合わせ「学び返し」の手段とした、豊かな地域づくりを目標とした記述に改めた。また前回の審議会の結果を踏まえ、「市民の知識と技能を地域に還元する」という表現を加えた。31ページの重点的な取組では、表題を変更するとともに「東京2020大会」と「ラグビーワールドカップ」の関連事業との連携を加えた。

36ページからは基本施策3となる。38ページの重点施策では表題が絞りすぎであるとの指摘を踏まえ、広い表現に改めた。また取組1に「東京2020大会」と「ラグビーワールドカップ」関連事業との連携を加えた。

43ページからは第5章となる。計画の推進体制として、生涯学習審議会の審議を受けること、市民協働による生涯学習の推進、市内部の各課での連携を強めることをポイントとして記述している。44ページは担当課及び審議会によるPDCAによる実施について示した。45ページ以降は資料編となる。

資料3はあくまで内容を見ていただくものである。文字のフォントやサイズ、色、写真などは内容がまとまった後に調整し見やすいものを作成する。

(会長) 「学び返し」がやや少なくなり文章で説明されている。答申をわかりやすくするために、後に文言の変更は行うが、本日は4章を重点的に時間をかけて検討していきたい。その後、字句の訂正などを行いたいと思う。本日と9月の審議会で修正は終了となる。

(委員) 第4章の全体の構成について、重点施策と施策は並列なのかなど、わかりにくいので説明いただきたい。

(事務局) 施策の作りは、基本的な考え方として、20ページの施策の体系を基本に文章化している。重点施策と施策が並列なのかという質問については、3つの基本施策を進めていく中で、もっとも重点的な事業、例えば24ページのように具体的に四角の中に示してある。作りの考え方としては、基本施策1の場合で言うと、施策1、2とは別

に、基本施策の領域の中で重点的に取り組む施策である。並列ではなく、施策の部分と重点施策の部分は基本的には別の形になる。

(委員) P D C Aサイクルのことを考えると、重点施策についてどこまでできているかを判断するには重点施策の下に書いている「事業の取組」について見ていき、施策の1、2については「主な事業」を見ていくという理解でいいのか。つまり具体的にどこがどのように実現したかを考えるためには、重点施策の「事業の取組」をチェックしていかなくてはならない。そういう理解でいいのか。

(コンサル) 第2次府中市生涯学習推進計画と同じように、基本的に、計画を実現するために新しく重要なプロジェクトとしてやるべきことを重点施策としており、第2次府中市生涯学習推進計画では生涯学習ファシリテーター・サポーター制度を作ることを打ち出していた。それと同じ構成で、それぞれの領域ごとに新しくやった方がいいと思われることを重点的な取組として別枠で載せている。一方、施策については、実際に進んでいる事業の一部を代表として載せるという構成になっている。

(会長) 38ページも同じ考えか。

(事務局) 基本的に同じ考えである。

(委員) 新しい事業や施策を重点施策という言い方をしているが、重点というのはそういうことか。

(コンサル) 単純に新しい施策や事業ということではなく、例えば38ページの場合、課題として「広報や情報の提供が少ない」と市民の方が回答しており、既存の広報関係の施策を単に続けるのではなく、新しいやり方を重点的にやって解決しなければいけないのではないか、ということで重点的な取組として挙げている。

(委員) 私は重点施策がアンケートの結果だけをもとに作られているという印象を受けた。例えば、基本施策1の重点施策に書かれていることは、私が感じていることと異なる。市民アンケートに基づいて重点施策を作るのは正しいやり方ではないと感じる。

(会長) どういうふうに訂正すればよいか。

(委員) わかりにくいのは、基本施策のあとに重点施策の事業の取組があり、施策の下に主な事業がある。もっとわかりやすく、例えば「新たな事業」という書き方にするなどしてはどうか。取組と事業はどう違うのかなどわかりにくい。書き方を統一できないならば「重点施策でこのようなことを実施することを提案します」程度の書き方にする方がいいのではないか。

(委員) 例えば、36ページ基本施策3だが、私としては「めざす姿」は「状態」に統一した方がいい。(3)施策目標はこれでいいが、施策の方向性については、全市民層にいきわたるような広報をやるべきだということを謳った事業を書く方がいいと思う。ここに書かれているような広報事業に10年間要するのか。施策については、「現状と課題」に書き込んでいる問題点を解消することにつながる事業名として、わかりやすい事業名がここに並ぶべきではないかと思う。「現状と課題」と問題解決の部分がつながっていない。「現状と課題」と「主な事業」が整合しない。

(委員) 基本施策の下に重点施策がある。基本施策を実現する上で重要な施策が「重点施

策」だろう。そういう意味からいくと、基本施策1「誰もが学べる環境づくり」の実現のための重点施策として「新たな参加者を取り込む事業の実施」とあるが、これでいいのか。基本施策3「生涯学習を支える基盤の整備」の重点施策が広報でいいのか。確かに広報は重要だが、広報以外に基盤の整備に必要なことはある。他のことはやるが書いていないという意味なのか。これに力を入れていくという考え方としてはわかるが。

(委員) 構成は読んだらわかるが、戦略的課題がはっきりしていない。何を解決するのか。ルーティンワークの改善だけで、今と何が違うのか。解決しなくてはいけない課題を1つ作ると、もっとわかりやすくなるのではないか。

(委員) 20ページに施策体系があるが、私も重点施策は並列だと思った。要するに、重点と書いてあるところが今までやっていなかった新しいことで、重点とついていないのが今までやっていたことをもう一度やると書かれているのかと思うが、それで合っているか。既存や新規と表現すれば、この表でわかると思う。新規の内容について言うと、チラシやポスター、ホームページは今までやってこなかったのか。SNSなどにも触れられていない。東京2020大会やラグビーワールドカップなど具体的で時間が決まっている、誰にでも想像しやすい名称が出ているので、もう少し具体性がほしい。「新しい」と「古い」、「継続」と「新規」を明確に表示してほしい。また、新規の内容についてもう少し具体性があつた方がいいのではないか。

(委員) 「事業の取組」と「主な事業」が2種類出ているのもわかりにくい。「事業の取組」は、新しくやるので細かいことは決められないので取組と書いているのだと思うが、もう少しわかりやすくした方がいい。

(委員) 戦略的課題がはっきりしていないためにこうなる。ルーティンワークのような内容が多い。

(委員) 「新たな」や「既存の」と書いてあれば、形式が違うのだとすんなり入ってくる。重点というのではなく、「これからやるもの」「これまでやってきたものの発展」のような言い方に変えていただければいい。

(委員) 例えば、基本施策1の「現状と課題」に何を書くのかが一番問題だと思う。それは決してアンケートの答えではないと思う。これから10年の地域社会を考えた時に、何を重点課題として生涯学習分野の中で考えいかななくてはいけないかを書かなくてはいけないのに、アンケートの数値から見た課題を挙げているだけで、人生100年時代、学びをやらなくてはならない時代になっているという危機感がない。重点課題も全く出てこないのではないか。学びの中身が最大の問題で、生涯学習というのは生涯に渡って何かを学ぶという点なので、それぞれの人がどういうふうに学び、自分の人生を豊かにしていくか、社会を豊かにしていくかという観点を書かないといけないのではないか。

(会長) 例えば、アンケート調査結果の問題点の緊急解決としてはどうか。

(委員) アンケートから見えてきた問題を解決することは必要だが、それよりも基本的な理念がはっきりしていないことが問題だと思う。3つの基本施策はいい。府中市は、

1についてはかなりできていると思うが、2ができていない。確かに「学び返し」の理念は府中市が国に先駆けている面があり、非常に素晴らしいと思う。根本的な「学び返し」の考え方には誰も反対していないと思う。しかし、「学び返し」が実際にはできていない。もっと広く考えてもらおうと、日本は少子高齢化という深刻な問題が起きている。例えば、建築関係や介護の現場など、予算はあっても人が足りずに機能していない。市民がいろいろな形で支援をして、人が少ない現状をどう解決していくか。市や町、国のために一歩踏み出して何かをやってもらおう、それが「学び返し」の本当の姿だと思う。それがこの「現状と課題」には出てこない。市民にはこういうことが求められている、だから知恵を絞って勉強して還元していきましょうという呼びかけが必要だと思う。

- (会長) 単なるアンケート調査結果ではなく方向性である。「事業の取組」を「新しい取組」にするか、「当面の解決案」にするか。削除した方がいいのか。
- (委員) 府中市として、どのような姿を期待しているのか。市民がやる気になるようなことを追加した方がいいのではないか。
- (委員) 審議会で何を議論するのか。教育委員会に答申するだけではないと思う。
- (会長) ここはそれに対しての提案の場ではないか。私たちは生涯学習という段階での、近い将来に渡る提言をすれがいいと私は思う。少子高齢化や社会全体の問題については、範囲を超えてしまうと思う。審議の段階ではいろいろな意見があっていいと思うが、答申としてまとめるとなると、生涯学習という範囲内で提言する必要がある。
- (委員) 「学び返し」というテーマを主軸にして市民に活躍してもらおうという方向に持っていこうとしているのであれば、生涯学習を通じて市民が自分で何かをやってみようという形になれるような形になるといい。
- (委員) 私は基本施策1、2、3ともそれぞれ意味があると思っている。特に1は、市民一人ひとりが豊かな人生を送れるようにすることで、それが生涯学習だと思う。私は自助、共助、公助と理解している。自助をはっきり書かないと推進計画にはならないのではないか。
- (委員) 31ページの施策の方向性の「事業の取組」に、そういうことがもっと書かれていればいいと思う。取組1の生涯学習サポーターや自主グループの活用は、以前から書かれていたが進んでいなさそうなものであるし、取組2に関しても、既存のイベントを列挙して、2026年までの計画なのに来年、再来年に終わってしまうイベントが書いてある。その点で24ページはいいと思う。若年層・就労者層向け事業の回答もあるし、取り込む事業と書いてあるので何かやってくれるという期待がある。31ページと38ページは具体的過ぎるので、夢が広がるような、もう少し広い表現にした方がいいのではないか。
- (委員) 施策体系の書き方ですが、「基本理念」「基本目標」「基本施策」とあって、もう一度「施策」が出てくるのがわかりづらい。なるべく早く具体的なところに行きつく方が一通り見やすいと思う。「重点施策」を「新たな取組」に置き換えて、「施策1、2」を「取組1、2」とし、「事業の取組」を「事業の具体策」として枠の中を「具体策

1、2」とした方がわかりやすいと思う。「基本施策」という言葉の下にまた「施策」がくると段階的にわかりにくい。「基本施策」があって「取組」があって「具体策」があるというように、1つ1つの階層をはっきり分けた方がわかりやすい。早めに具体策に行きつかないと、理念ばかり頭に入ってきてしまう。

(委員) 重点施策が新しくやることという話だったが、施策1から3に表があって将来のことが細かく書かれているが、重点施策の部分も、新しくやるというよりは、今までやってきたことの課題となる部分を強化したいということで重点がついていると思う。新規のものと既存のものという分け方ができない気がするので、重点施策と施策1、2の書き方をわかりやすくして、その上で重点にしたいことがわかるようにできればいいと思う。

(委員) 重点施策は新規事業、施策1、2は既存事業で、その既存事業の中で計画期間の間に実施するべきことがあるという書き方だと思う。

(委員) 完璧な新規ではなく、これまで考えてきて、それがうまくいっていないので、もう一度重点にしてやろうとしているのではないかな。

(委員) 市が把握している事業があって、計画期間中にやることが右側に書かれている。重点施策の取組事業は何らかの市の管轄下で、事業名として何かを作るのだという思いなのではないかな。

(委員) 優先的というのはどうか。

(委員) この施策をやっても活性化しないと思う。府中市で何を解決しなくてはいけないのかを、はっきり提示すべきである。それをどういう視点で改善するか。それが重点施策だと思う。大きな観点でどこをどう変えるか、もっとシャープでないと、審議会で作る方向付けが弱いのではないかな。

(事務局) 今回の第3次府中市生涯学習推進計画は、市民へのアンケート、団体や施設へのヒアリングで意見を聴取したものがベースとなっている。アンケートやヒアリングから見えてくる府中市の生涯学習の現状と課題を抽出して、第3次の計画を作っていきたいという思いで進めてきた。重点施策はそういった手順を踏まえた上で、更に市民が望んでいるところ、強化してやってほしいところを抽出して表記しているとうりご理解いただきたい。ただし、現段階で分かりづらい部分については、見せ方を検討していきたい。戦略の部分については、市長が市民協働を打ち出していて、行政だけでなく地域市民との協働によるまちづくりという展開をしてきている。本計画においても市民協働という言葉を入れており、これがまさに戦略的な部分に当たると捉えている。また、20ページの施策の体系の作り方や表現は、総合計画の体系図と揃えている。この計画は総合計画の実施計画であるため、こういう表現になってしまうことはご理解いただきたい。ただし、重点施策と施策の見せ方は検討しなければいけないと思っている。

(会長) 44ページのPDCAサイクルのActionはActに訂正した方がいいと思う。ウォルター・シューハート、エドワーズ・デミングが提唱したのはActで、こちらが正しい。

- (委員) 基本施策1の中身をもっと議論しないとだめだと個人的に思っている。21ページの「現状と課題」は説明になっていないと思う。生涯学習講座とは生涯学習センターの講座の意味ではないのか。ここで数値を取り上げるのであれば、何を意味しているのか。民間の指定管理者になり、非常に多くの講座が開催されるようになったが、そのことを言っているのか。
- (事務局) 生涯学習講座の数え方は、市で実施している公民館講座、生涯学習サポーター・ファシリテーター養成講座等の人数も入っている。公民館講座は文化センターで実施しているものも含まれる。また、生涯学習センターの教養実技講座、スポーツ講座の参加者人数なども含まれている。
- (会長) 参加者数が数値では増えているが、増えていないということか。
- (委員) 23ページの施策目標に数値が上がっているが、どういう意味があるのか。何を目標にしているのか。
- (会長) アンケート調査をした場合は数値に頼るしかない。
- (委員) 分析をするときに資料を見てどういう結論を出すのかが大事だと思う。2万人から7万人に増えたのは生涯学習センターが民営化されて講座数が増えた。その中身は趣味・実技やスポーツに関する講座が大量に作られた。そのことをもって何を評価しているのか。
- (会長) 総合的に少子化や人生100年時代などいろいろな問題があるが、我々はもう少し限定しないといけないのではないかな。あらゆる問題を取り上げたら結論がでないしディスカッションにならない。
- (委員) 基本施策とめざす姿、そして具体的に何をやるかが大事であって、文言やテーマに拘っていたら進まないと思う。「めざす姿」はここに書いてあることでいいのか、という方が話が進むのではないかな。現状と課題から「めざす姿」が出てきたと思うので、「めざす姿」が自分の思っている部分と近いことの方が大事だと思う。
- (委員) 書かれている文章が理解できないのはよくないと思う。
- (会長) それは修正してもらおう。審議会の目的や義務があるので、あまり拡大しない方がいいと思う。例えば、生涯学習センターでのテーマの決め方、やり方は一般市民はほとんど関与できない。いろいろな意見を出していただくのはいいが、これで終わるのではなく、一步一步実現できるところを出発点にして、ディスカッションしてまとめていけばいいのではないかな。
- (事務局) 20ページの施策体系の、重点施策と施策1から3が並列していてわかりにくいという意見をいただいた。具体的な意見をまとめていただき、その意見を事務局で練って次回に反映させたいと思っている。「重点施策」「取組」「事業」といった言葉に限らず、ご意見をまとめていただきたい。
- (会長) 話し合いの中から、「重点施策」は「従来の施策の重点的検討と解決法」という感じを受けた。アンケート調査は過去の結果で、施策は過去に則って意見を述べているので、「従来の施策の重点的検討と解決法」、そして「取組」はこれからのことということで1、2、3でいいと思う。「従来の施策の重点的検討と解決法」を最初に並べ

ていいかは難しいところである。市民が望むところを重点的にやるということが、重点施策になっていると思う。これまでの施策の問題点と解決法と私は受け止めた。

(委員) 20ページの2は階層構造の絵になっているので、包含関係をもつような文言を並べる方がいいと思う。施策、事業、取組、具体策でいいのではないか。新規事業と既存事業があり、新規事業はこういう取組、既存事業はこういう取組とあって、その中に具体策がある。わかりにくいのは、これまで行ってきた「主な事業」に事業という名前を付けているからだと思う。市からみると事業だが、この文章の中では事業と捉えなくていいのではないか。この推進計画の文章の中では施策の中の事業の中の取組と定義すれば、わかりやすくなると思う。

(委員) 主催する主体を明確にしないと事業にならないのではないかな。

(委員) それならば別の階層を設定すればよい。

(委員) 第2次府中市生涯学習推進計画から何が変わったのかというと、文化生涯学習課が所管する事業が大幅に変わっていると私は理解している。生涯学習センターが民間の指定管理者に移行した時点で、府中市の生涯学習の施策が大幅に変わってこないといけないと思う。その観点がほとんど書かれていない。生涯学習課が従来担当していた事業を羅列しているだけという印象を受ける。

(委員) 表になっている事業がわかりにくいので、それは注意書きで定義する。階層図では包含関係のある単語を使いましょうという提案である。それで不整合が出るのであれば、別の包含関係をもっている単語で整合させる。

(委員) 基本施策という言葉は変えられないのか。例えば基本方針に変えることはできるか。

(会長) これについては事務局で検討してもらう。

(委員) 前回の推進計画案だと主な事業にそれぞれ担当課名が書いてあったが、削除したのは理由があるのか。

(事務局) 当初はわかりやすいように主管課を書いていたが、8年間の計画であり組織改正等々あるので取らせていただいた。

(委員) 第2次府中市生涯学習推進計画では入っていた。

(委員) 「基本施策」は「基本方針」、「重点施策」は「重点方針」、「重点施策」は「施策1、2」ではないか。「新たな参加者を取り込む事業の実施」は本当に一番大事な方針なのか、議論した方がいいと思う。

(委員) いろいろな意見が出ているので構成は組み替えていただければいい。施策を読んだあと、列挙されている主な事業が具体的に提案されたのかなと見た。ほとんどが今行っている事業で、今後の狙いを見つけようとしても見つかってこない。

(委員) 20ページの重点施策で「新たな参加者を取り込む事業の実施」がタイトルになっているが、他の2つに比べてこれだけ異質な感じがするので、書き方をもう少し検討してほしい。

(副会長) 全体的に最初の取組の組み立て方が、途中からわからなくなっているのが現実である。気になるのは、施策の中で10年20年の目標を掲げていながら、東京2

020の文言を入れているのは少し違和感がある。これは府中市の生涯学習の方針で、東京2020はあくまで短期的なものなので、そういう部分を含めて見直しをかけるのであればやっていただきたい。文言はいろいろと修正しなければいけないのではないか。

(委員) これでは、市民の生涯学習に対する興味がますます遠ざかっていく。例えば現状と課題の中で、現状にボランティア活動について何も言及されていない。ボランティア活動をしている人のことを何も考えていない。もう一つ、最も大事な社会教育全体に関する記述がこの計画にはほとんどない。市はどうしていこうとしているのか。

(委員) 施策1、2に書かれている主な事業が、今までのものが書かれていると思ったが、33ページの「生涯学習ボランティア」は新しく作るのか。41ページの主な事業「生涯学習サポート事業の新設」も同様で、新しくやることも入っている。

(委員) 高齢者をどうやって元気づけるかが生涯学習の一番の課題だと思う。楽しく長生きして生き生きとした生活が送れるか、そういう仕組みができないか。それが非常に重要だと思う。例えば、市民カレッジなどが機能していないといった課題もあると思う。明らかに市が変わったと見せられるようにしてほしい。そうするとダイナミックになると思う。これでは現状とほとんど同じで何も変わっていない。

(委員) 31ページと38ページの方向性の部分で、この計画は2019年から2026年に続くと8ページに書いてあるが、ラグビー2019と東京2020大会と書かれてあり、最初の2年のことしか述べられていない。せめて「大きな大会等」といった表記にするなど、もう少し工夫してほしい。38ページの記載方法についても、もう少し大きいことを言って一部分が達成できればいいくらいの広い提案をしてほしい。上の文章に書いてあるHPやSNS強化、これをそのまま出せばいいのではないか。

(会長) いろいろな議論が出たので、今日のディスカッションは終わりにする。

(委員) 最後に1点、29ページの文言で修正箇所の提案。めざす姿の2番目に府中市が2回出てくるので2つ目は削った方がいいと思う。

(事務局) 文言は訂正する。

(委員) 9ページの計画策定の体制「素案を作成し答申する」と書いてあるが、何を答申するのか。審議会が責任を持つのはどの文書なのか。

(事務局) 教育長から諮問をいただいた。第3次府中市生涯学習推進計画の素案そのものが答申となり、答申書をつけて教育長に答申する形となる。

(委員) 内容は前よりはだいぶよくなっている。問題は実際に市民が具体的に実行していくという意味では、主な事業がいかに充実しているか、選択肢としてたくさんあるか。市民が取り組みやすい一つのきっかけになるのではないか。これから増やせるのであれば、いろいろなものを入れてもらえればいいと思う。最終的に作る段階で検討いただきたい。

(事務局) 46ページの名簿の表現を差し替える。分野と所属を整理し、公募の方の所属欄は空白にする。

5 その他

(1) 平成 3 0 年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第 5 ブロック研修会進行確認、役割分担について

事務局より、1 0 月 2 7 日 (土) に開催される第 5 ブロック研修会の進行確認、役割分担に関する説明が行われた。中村委員が司会に決定、その他の役割分担は事務局に一任となった。

(2) 次回の開催について

次回の開催日程について、委員の都合を挙手にて確認し、9 月 1 4 日 (金) に開催することが決定した。